

学校法人 岩崎学園 横浜リハビリテーション専門学校
平成 27 年度 第 1 回学校関係者評価委員会 議事録

日 時 平成 27 年 5 月 15 日（金） 16:30～17:30

会 場 横浜リハビリテーション専門学校 非常勤講師室

出席者 横浜市立大学附属市民総合医療センター、東戸塚記念病院、本校卒業生、学校長、副校長、理学療法学科長、作業療法学科長、ほか教職員 6 名 司会：水島学科長

内 容

I. 学校長挨拶

PT・OT 養成の大学が近辺に設立され、本校を取り巻く環境も厳しいものになってきております。そこで、本校といたしましては、これまで以上に教育の特徴を出していきたいと考えておりますので、委員の皆様からの忌憚のないご意見を、どうぞよろしくお願い申し上げます。

II. 委員の変更について

神奈川県立南陵高校の校長が小宮先生から阿部先生に変わられたため、学校関係者評価委員についても変更になります。

III. 平成 26 年度報告事項および平成 27 年度課題

【教務部平成 26 年度総括・平成 27 年度業務報告】参照

1. 教務部総括（林副校長）

- ・重点項目の振り返りについて報告
- ・重点目標とした「卒業生の授業への参加を促す」という点については、効果的な募集に至らなかった。
- ・皆様もご存じの通り、新学校種への移行を検討しています。また、皆様にもご協力いただく場面があるかと思しますので、よろしくお願い致します。

2. 平成 27 年度業務計画（林副校長）

- ・臨床家（プロ）の育成。
- ・オリンピック・パラリンピックに向けた準備。
- ・新学校種については、実習施設からのフィードバックをいかに取り入れられるかが大切と考えている。これについては、実習訪問等で学校への要望を伺っている。
- ・社会性については、より客観的になるように指導報告書の項目を検討、新カリキュラムより改訂してきた。
- ・就職支援に関しては、近年に施設からの希望を受け、本校での合同説明会の実施を検討している。
- ・次世代を担う教職員の養成として、アクティブラーニングを取り入れた授業を増やす。
- ・障害者スポーツ特別授業については、厚みを増して提供したい（回数の増加）。
- ・それぞれの評価指標と目標値は「平成 27 年度の重点課題」の 2 - 4 に示した通りです。

【自己評価表】参照

1. 教育理念・目標（林）

2. 学校運営（林）

- ・業務分掌については偏りを意識し、新学校種に創設に向けて移行準備プロジェクトチームを設け、作業を広げる。

3. 教育活動

シラバス・カリキュラム(中村)

- ・高校生の現状を反映させるために、教職員 4 名が県立高校の評議員を務めている。
- ・実習訪問時の情報収集のための調査票の見直しを行い、質的の情報のみならず量的な情報収集も行う。

教育力向上(田中)

- ・授業参観については、授業の録画とそれを利用した検討会等を候補としている。

臨床実習（瀬古）

- ・公文書等の書類のダブルチェックを徹底する。

情報公開（中村）

- ・授業アンケート結果および対応についての公開を検討する。

4. 教育成果

資格・卒業研究（田中）

- ・新カリキュラム学年は卒業研究までに研究形態を経験しておらず、指導の増加は必要と考える。

国家試験・卒業試験（瀬戸山）

- ・特別講義を早期に開始するように検討する。

臨床実習、留年・退学者防止、卒業生（中村）

- ・指導報告書の評価項目について具体的になるように見直しを進めているので、3 年次の評価項目を 4 年次の報告書に落とし込む作業を行う。
- ・16 期生に退学者が多いため、その対策を強化する。
- ・卒業生に対するアンケートについて、経時的変化が捉えられるようなものを検討する。

5. 学生支援（田中・中村・宮野）

社会性（田中）

- ・全体への指導のみならず、個別での指導が必要である。

行事（田中）

個別指導（中村）

- ・突然の進路変更の申し出があるため、より精度を高めた面談の実施が必要である。

健康管理・防犯、就職支援、災害対策、経済援助・活動援助（宮野）

6. 教育環境（宮野・杉山）

教室（宮野）

- ・平成 26 年度は 603 の AV 機器の更新を実施した。平成 27 年度は 8 階講堂の OA 機器経年劣化に伴う更新を予定している。
- ・また、手洗いについては和式を洋式に刷新し、ウォシュレットを設置予定である。

図書・設備・備品（杉山）

・WEB 検索システムの導入作業を継続中

7. 学生募集（宮野）

・定員は充足したものの、ギリギリで厳しい状況であった。

8. 社会貢献（宮野）

9. 法令等の遵守（林）

・ISO 認証は 5 年経過したため、今後は職業実践専門教育課程の第三者評価に移行する。

IV. 質問・意見

松本先生：パラリンピックに関するお話があったが、私は県土会でスポーツ支援の仕事をしているため情報が入るが、オリンピック・パラリンピックが来るときに、トレーナー的スタッフの構成を考えている。そのためには英語力が必要不可欠である。学校として英語力の習得をバックアップする体制があってもいいのではないかと考えている。

また、実習に関して、実習を自ら中断している学生がいることは非常に残念であり、魅力が伝わらなかったのだと考える。学校から実習施設や指導者に対して要望があれば聞かせていただきたい。

林副校長：実習では人と人との関係性でつまづくことも多いようである。指導者側が一人の考えで対応せず、複数の指導者が考え方のバリエーションを示しつつ、できれば学生が混乱しない形で調整していただけるとありがたい。

また、一対一の関係の中で、質問に対する課題が増えることを危惧し動けない学生もいるようである。

橋本校長：3・4 年次での方向転換は残念である。何かいい案があればお聞かせ願いたい。

松本先生：現行ではキャリア条件として 4 年以上の PT が指導者をしている。実際に魅力を伝える力があるかは不十分である。若手のみの指導ではなかなか難しいと考えるので、指導者の経験年数を上げてはどうか。

中村学科長：実習指導者へのお願いとしては、より具体的な言葉での指導をお願いしたい。例えば「人を見る」ということに関しても、その細分化によって何をすればいいかわかるようにして頂きたい。学校としては実習の指導報告書もより具体性を持たせるような工夫をしていく。

鴻井先生：卒業試験や実習の指導報告書等におけるオリジナルの取り組みは非常にいいと考える。学校長が言われた「本校の目指す学生像のための取り組み」として、オリジナルで作上げる意味はあると考える。卒業試験を 2 回オリジナルにした理由を聞かせていただきたい。

林副校長：これまで2回の卒業試験については、業者模試とオリジナルを使用していた。業者模試は全国でのポジションもわかりいいのだが、一斉実施ではないため情報が漏れる可能性を否定できない。卒業試験は、卒業を決定する大切な試験であるため、2回ともオリジナルとした。業者模試に関しては、実力試験として実施している。

鴻井先生：学生の応募（入試状況）についてお聞きしたい。

林副校長：応募者数は2倍弱というところで、若干減少傾向である。

鴻井先生：応募者が多いと学生の質は高いのか。

林副校長：ある程度の数は必要である。今年は合格した学生の辞退が多かった。

鴻井先生：一般の企業等で考えれば応募者数はバロメーターになると思うが、学校の場合は多ければいいというものでもない考える。

林副校長：本校のオリジナリティーを向上させ、魅力ある学校作りを進めたい。

鴻井先生：先程の話にもあったが、語学力向上のための取り組みはいかがだろうか。病院でもその取り組みを実施している。4年という期間で一つの資格として推奨してもいいのではないか。語学力向上は必要であり、学校としてキャリアデザインの方向性を示すのもいいのではないか。WFOT等を意味のあるものにするためにも、学校の特色にしてはどうか。

林副校長：自己推薦という入試形態もあるので、語学力に長けている学生を引き寄せたいと考えている。

鴻井先生：当病院では、諸外国より船が着く関係で、英語力が高い人材は大変ありがたい。現在は相談数の約8割が中国語であるため、中国語が課題であり、それに対する対応も望まれる。

大場先生：実習のところで、いくつか意見を述べさせていただきたい。実習ではコミュニケーションや社会性が重要と考えている。学力が低くてもコミュニケーション力が高い学生は伸びると考えている。逆に学力が高くてもコミュニケーション力が低い学生は実習後どうなっているのかが気になる。実習を自己中止する学生や実習中に進路変更する学生について、そのあたりの問題はどうか。

横リハは実習終了後、学校での指導がよくできていると考えているので、実習施設としては安心してはいる。しかし、施設側で考えていることが、正確に学生や学校に伝わっているか不安を覚えることもあるため、実習後に施設に問い合わせをしていただいてもい

いと考えている。

水島学科長：新カリキュラムではコミュニケーション概論という授業を設け、コミュニケーション力の向上について取り組みを強化している。また、職業人としての意識作りとして、1年次からの早期の意識付けが必要であるが、そのためには見学実習も含めて臨床現場からのフィードバックも重要である。ぜひ先生方と連携を取りながら行いたいと考えている。

林副校長：新学校種である大学化に向けた取り組みを進めていきたい。そのためにぜひ現場からのご意見を頂戴したいと考えている。

水島学科長：本日はお忙しい中、ありがとうございました。次回は11/13（金）16：30～に予定したい。1ヶ月前頃に文書にてお知らせします。

以上
文責：田中